

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600052
法人名	社会福祉法人 博寿会
事業所名	グループホーム高松みどりの里
所在地	鹿児島県末吉町諏訪方6875番地 (電話) 0986-76-7828
自己評価作成日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然にも恵まれ、コロナ前までは、ご家族の面会も多く、地域住民の方々がグランドゴルフの場として活用して頂いておりました。今後コロナウィルスが収束した時には、地域交流を活発にすることで地域に根差し利用者様が地域の一員であられる事業所になるように努力していきたいと思っております。

同敷地内には地域密着型の特別養護老人ホームが隣接、小規模多機能ホームが併設されており、環境の変化があまりなく在宅から入所サービスに移行できスムーズに入所出来ているケースが多くみられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、曾於市末吉町の中心部から数キロほど離れた自然豊かな諏訪方地区の一角に平成21年に開設されており、広い敷地には法人母体の特別養護老人ホーム、小規模多機能ホームが併設されている。これらの事業所とは法人本部を中心に情報を共有し、研修や災害対策等の協力体制を構築している。周辺は広大な畑に個人住宅等が点在しており、少し離れて小学校や幼稚園、商店、個人住宅等が立ち並んでいる。開設以来、地域との円滑な交流に取り組んできているが、現在はコロナ禍に配慮して、イベントへの参加や住民の来所による交流は自粛している。住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談等には専門性を生かして丁寧に対応し、ホーム前の広い庭は、地域の人のグランドゴルフ場として開放している。広い敷地には桜や多種の草木が植えられ、利用者は四季を感じながら平穏な日々を過ごしている。

管理者及び職員は、法人の理念に加え、ホーム独自の職員の思いも掲げており、利用者の尊厳や人格、想いを大切に、その人らしい生きがいのある暮らしへの支援を、心身の状態や生活習慣等にも配慮しながら取り組んでいる。利用者及び家族からの意見や要望等を、ケアの中や面会、電話等で汲み取り、職員会議等で協議して改善に繋げており、アンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、年齢差や経験年数に関係なく気軽に意見を言い合える信頼関係を築いており、日頃の業務の中やミーティング、申し送り等で意見や要望を出し合って運営やサービスの向上に取り組んでいる。管理者は日頃から研修の実施やケアに関する助言・指導に努め、勤務シフトには休暇取得や個人的事情も配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。外部研修の受講料や資格取得に係る経費については法人による助成の制度があり、各種の休暇取得が促進される等、福利厚生の充実が職員のモチベーションアップに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人共通の『理念』『職員訓』及び『職員訓』を掲げている。また職員一同で法人理念に沿った高松みどりの里の想いを毎年度初めに再確認行っている。	法人全体の理念を玄関等に掲示し、理念に沿ったホーム独自の職員の想いも掲げている。毎年度初めには全員で意義を再確認し、毎月の職員会議で唱和し、ケアの振り返り等を行って理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺集落の方に庭を開放し、グランドゴルフに活用されている。地域の敬老会や夏祭り。学生の職場体験やボランティア等の行事は感染症予防の為に中止になり、地域との交流は少なかった。	開設以来、地域との円滑な交流に取り組んできているが、コロナ禍の為に、敬老会や夏祭り等の地域のイベントの殆どが中止され、利用者の外出やボランティアの受け入れ、ホームの行事への住民参加等は自粛している。ほっとカフェへの参加や通院、農産物の差し入れ、住民からの高齢者福祉や認知症ケアに関する相談への助言等の交流は継続し、園庭を住民のグランドゴルフ場に開放している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	利用希望者だけでなく地域の方々の相談、制度、施設説明に努めている。又、今年は開催がなかったが市主催のほっとカフェに協力し、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し地域住民代表、家族代表、行政の職員等に出席頂いている。今年度は感染症対策の為に書面開催で行った。	会議は、家族、住民代表、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して、今年度は一堂に会することは控えて書面での会議に変更している。利用者の状況やホームの運営、行事等を議題にして、意見等を貰うようにしており、委員からは地域の情報が寄せられている。寄せられた意見はミーティング等で検討して改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加と報告、年4回の曾於市ホームの会参加や窓口電話での相談を随時行っている。</p>	<p>市の担当者には運営推進会議でホームの状況を理解してもらっている。介護保険の更新や各種制度の申請、報告、協議等を、窓口に出向いたり電話等で行い、指導や助言、提案をもらうなど、市担当者とは日頃から協力関係を築いている。市主催のリモートによる会議や研修にも参加して、運営やサービスの向上に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の勉強会を開催し職員への周知を行っている。</p>	<p>身体拘束の防止については運営規定や利用契約書、重要事項に明記し、計画的な勉強会の実施で認識を共有している。適正化を図る指針を整備し委員会も年4回開催すると共に、ミーティングでの勉強会や拘束や虐待に関する意見交換を行って、拘束の無いケアに取り組んでいる。見守りセンサーの使用については事前に家族にも説明して了解を得ている。昼間は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や寄り添い、園庭の散歩等で気持ちの安定を図り、職員の不適切な発言やケアには、その都度、注意や助言するなど日頃から改善に努めている</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の勉強会を開催し、資料配布や、情報を提供している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護の勉強会を開催し権利の大切さを学んでもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は、重要事項等の書類を含めた制度の説明と質問に答え理解を得られるように心かけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>担当者会議前、モニタリングにて利用者、家族から意見を頂いており、必要に応じて電話連絡を行っている。</p>	<p>利用者や家族には日頃から意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮しており、利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で理解に努め、家族からの意見、要望は面会（コロナ禍の状況により窓越しで実施）や電話、手紙等で把握しているが家族会の開催は中止している。毎月発行の「みどり新聞」に利用者毎のコメントも添えて実状を伝え、意見等を貰うように努めており、出された意見要望はミーティング等で協議して改善を図っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からの関りで職員の意見聞き、代表者に必要時報告し検討している。人事考課制度による個人面談もあり、意見を伝える場がある。</p>	<p>管理者は職員との日頃のコミュニケーションにより協力及び信頼関係を築いており、業務の中や申し送り、ミーティング、人事考課時の個人面談等で要望や意見を把握して改善に努めている。また、日常的にケアへの助言・指導やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには休暇の取得や健康状態、個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。法人による外部研修や資格取得時の経費の助成や育児休暇、介護休暇など福利厚生が整備されて職員のモチベーションアップに繋がっており定着率も良い。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>業務標準化での評価を行い、個人目標を年度ごとに設定し評価するよう取り組んでいる。又有資格者に応じた資格手当もあり、スキルアップに対する評価を行うようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人本部や管理者とともに研修方法や機会の確保に努めている。内部研修は定期的開催しており外部研修の機会案内の紹介も行っているが今年度は感染症対策の為にリモートでの参加になった。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度は感染症対策の為にリモートでの研修参加の為に同業者との交流はあまり図られなかった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や施設、自宅等の訪問を行い、事業所に対する理解や職員を覚えて頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や施設、自宅等の訪問を行い、事業所に対する理解や職員を覚えて頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に当時業所の利用に限らず、その方の状況に応じて介護サービスの説明や他事業所の案内も含めて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶を一緒に頂くことで、一緒に生活している『共同生活者』となるように努力している。利用者も掃除などの家事に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力性を説明し、介護計画書に盛り込むなど、ご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策によりドライブや墓参り等の外出が行えなかった。面会もオンライン面会を行った。	利用者毎の馴染みの情報を把握し、通常は近辺の散歩や買い物、ドライブ、外食、墓参等を家族の協力を得ながら支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して、買い物や外食、墓参等は控えている。窓越しやオンラインによる面会の実施や電話、手紙の取り次ぎ、写真を添付した園便りの送付等、工夫して関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染症対策の為、席を離すなど行ったため、関係性作りが困難であった。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も連絡をとったり担当の方と連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認した上でのプラン立案や日常の介護に努めている。また、計画書も本人様の言葉表現に留意して支援している。	高齢・重度化により発語が難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるように取り組んでいる。利用者の意向に沿って音楽やテレビの視聴、ぬり絵、菜園の作業や収穫、テーブル拭き等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や会話、家族からの情報収集で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の生活状況を踏まえ、日々の生活状態を観察し、個々の生活リズムで過ごせるように努力している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向確認を行いミーティングにて評価検討を行っている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示やミーティング及びモニタリング時の職員の意見を基に残存機能や習慣、楽しみ事等にも配慮した介護計画を作成している。通常は半年毎に見直して計画を更新しているが、状態の変化時には随時、計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て改善に努めており、実施状況はバイタルのチェック表や介護支援経過等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、その他に申し送り簿や日誌を活用し、定期的にミーティング開催で情報の共有や評価につなげられるようにしている。介護計画の実施状況も確認し、評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染症対策で個別での外出のニーズ等には対応できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策にてボランティアの参加や、知人の面会など出来ない状態であった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、入所前の主治医を継続するなど、希望や経緯を踏まえて支援している。受信後も電話や個別の苑便りで報告している。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月1回）や通院を実施し、他科受診も家族と協力して同行している。日頃から利用者の衛生や健康管理を徹底し、健康状態は家族にも密に報告して共有を図っており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、往診以外にも必要に応じ連絡を取り合っている。また、併設事業の看護師との連携を行い治療にたいするアドバイスや主治医への報告につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族の相談などに努めている。病院関係者とも、現状の確認や今後の方針について連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一定基準も設けており、利用開始や必要時に説明を行っている。	重度化の対応については、入所時に利用者及び家族に説明し、また、看取りは実施していないことも併せて理解を得ており、同意書も貰っている。入所後は利用者の状態変化に応じて終末期を含む説明や話し合いを行い、ホームで可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいる。重度化の手前から家族と十分話し合いを実施して方向性の共有に努め、意向に沿って医療機関や特別養護老人ホーム等の紹介も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の開催や資料配布、研修の参加などにて、知識、技術の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な消防訓練の開催や近隣住民の方々に協力隊になって頂いている。近隣協力隊の連絡網も作成している。</p>	<p>年2回、夜間発生も想定した火災訓練を実施し、消火器の取扱い等も研修している。コロナ禍で消防署立ち合いの協力は得られず、ホーム独自で実施している。日頃から通報や避難経路の確認に努め、報道された災害事例を基に意見交換するなど防災への認識を共有し、地域の住民も連絡網に組み入れる等、協力体制を築いている。スプリンクラーや自動通報装置の設置や定期点検も実施され、3日分の食糧・飲料水、介護用品を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本ケアのマニュアルを作成、認知症・権利擁護の勉強会を開催し、1年おきに見直し徹底するようにしている。	基本ケアのマニュアルを整備し、人格や誇りを損ねる事の無いように認知症や権利擁護の勉強会やケアの振り返り、意見交換等を行って認識を共有している。利用者の生活歴や習慣等に配慮し、その人らしさを大切に自己決定を尊重した支援に努めている。ホームはプライバシー保護に配慮した構造で、入室時の声掛けやノックを励行しており、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物など、本人様の嗜好意向をくめるように、選択できる場を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など自宅での状況やその時の様子で実施している。本人様の意向や自宅での様子、家族と要望を考慮した生活をしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一緒に準備したり、入浴などその都度利用者様が洋服を選択している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見をして頂いたり、調理でも、調理レクなど可能な作業を行える機会を出来るだけ持つようにしている。	利用者の好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け、代替品等細かに配慮し、頂いた野菜も活用して調理しており、法人の栄養士の助言も頂いている。お節や敬老会などの行事食や誕生会やクリスマスのケーキ、手作りのおやつ、ギョーザや弁当のテイクアウト、調理レクレーション等工夫し、利用者も味見や食材の下処理、お盆拭き等を楽しみながら行っているが、コロナ禍に配慮して外食や弁当持参の外出等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者さまの病気や嗜好を考慮して必要な食事・水分量が取れるように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつ表を活用し、担当職員がオムツの必要性も含め評価、検討	排泄表で利用者の排泄パターンや習慣を把握し、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、オムツ使用量の減少の改善もみられている。便秘の予防に食物繊維の補助食品や水分の摂取、運動量等に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけでなく食物繊維の補助食品使用したりしている。レクで体操をするなど体を動かすことも取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	健康状態や気分、自宅での状況を考慮して行っている。好みにより入浴剤の使用等も行っている。	週3回の入浴を基本としているが、必要時には、その都度、シャワー浴で清潔を保っている。温度や時間、習慣、同性介助、入浴剤の使用等は意向に沿って柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏塗布等を支援している。介護度の高い利用者には2人介助で支援し、入浴をためらう場合には無理強いしないで、時間の変更や声かけ等の工夫で、利用者自身の気持ちを汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間や覚醒時間を個人のリズムやその時の状態で過ごすべく配慮している。眠りスキャンも導入しており、入眠状況の確認も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の紹介を個人台帳に綴り確認出来るようにしている新たな処方時は申し送りノートにて情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や希望を基にケアプランをはじめ日々の行事や生活に取り入れている。マッサージ機や運動、カラオケ機器など。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の為外出は行えなかった。苑庭の散歩や、菜園作り等行った。	利用者の状況に配慮し歩行介助しながら園庭での日光浴や周辺の散歩、菜園の作業等を日常的に楽しんでいるが、コロナ禍に配慮して一時帰宅や買い物、外泊、外食等は控えている。地域のイベントの多くが中止になり、ホームの外出計画も十分には実施出来ない状況が続いているので、室内での軽い体操やゲーム、チラシでゴミ箱作り、昔の音楽・ビデオの視聴等、余暇時間も工夫してリフレッシュに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>診療代など支払用に苑で管理しているが、数名の利用者は財布を金庫に預けて外出時に使用出来るようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様やご家族の希望時はいつでもできるようにしている。現在はLINEでの電話で顔見ながら会話している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>感染症対策にて席の間隔や定期的に消毒による移動など不快に思われる場面もあった。</p>	<p>ホールは、天井が高く大きな窓で明るく、余裕あるスペースが確保されており、テーブルやソファ、テレビ、手すり等が動線に配慮して設置され、利用者の作品や行事の写真、季節感のある活花等が飾られている。窓からは周辺の、のどかな田園風景が望め、厨房の調理の音や臭いが伝わるなど和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓等を心がけ、感染症予防のための手指消毒剤等も設置されており、利用者は四季を感じながら快適に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースも食事の場所・テレビの前のソファ、掘りごたつ式の畳など、それぞれが好みにより過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けのベッドや寝具以外は自宅より持参していただき、又遺影や写真など持参など個人の空間になるようにしている。</p>	<p>洋室の居室には電動ベッド、エアコン、トイレ、洗面台、ナースコールが備えられ、腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保されている。利用者は自宅で使用していたテレビや家族写真、寝具、遺影、小物を持ち込み、自身の作品や長寿祝いの額等も飾って、その人らしい落ち着いた過ごせる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>キッチンも対面式で出来るだけ参加出来るようにしており、手すりの設置やバリアフリーにするなど活動の制限が無いようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない